

# JCS リレーフォーライフ



## ルミナリエ

～あふれる命への賛歌～

## ルミナリエの輝き

アメリカがん協会が主催する「リレー・フォー・ライフ」は、毎年全米5、000ヶ所で行われている「がん撲滅」を主旨とした社会貢献活動です。「リレー・フォー・ライフ」は今から23年前、あるアメリカ人医師がシアトル郊外で24時間トラックを周回し、「がん撲滅」の為に資金を募ったのが最初と言われております。そして今や「リレー・フォー・ライフ」は、多くのがん患者やそれを支援する地域住民や医療従事者、全米のがん治療研究者たちを何千万人も巻き込んで、全米で年間400億円の寄付金を募る、世界最大のチャリティ・イベントにまで成長しております。

その寄付金の集め方は、決して企業頼みの大口寄付ばかりに頼っているわけではありません。その地域で行われる大会に合わせて、9ヵ月～1年前からその主旨に賛同し参加する事を決めた「チーム」や「個人」がコツコツと募金を集め始め、目標額の1人年間100ドルを目指し、地道な活動を繰り返しております。そしてその募金集めの最大の立役者が、この「ルミナリエ・バッグ」であります。「ルミナリエ・バッグ」を1セット10ドル程度で販売し、その収益金は「リレー・フォー・ライフ」の場を通してアメリカがん協会に全額寄付されております。 ⇒ [参考:アメリカがん協会リレーフォーライフ募金の活用について](#)

「ルミナリエ」の寄付に応じた人々は、今「がん」を患っている家族や親類・知人を励ますため、また残念ながら「がん」で命を亡くしてしまった愛する人を偲ぶため、この「ルミナリエ」に思い思いの文言を刻みます。そして大会当日の夕刻、そのような形で様々な人々の手に渡った「ルミナリエ」が一同に会場に集められ、いっせいに点火され夜空を照らします。ルミナリエの輝き・・・それは募金活動を通し「がん撲滅」を真摯に願う多くの人々の熱意と、「がん」で亡くなった方々への鎮魂を願うたくさんの方々の優しさが合わさって、永遠に輝き続ける「希望(HOPE)」の光なのです。

## ルミナリエを通した募金のお願い

チームで参加して下さる皆様は「リレー・フォー・ライフ」の主旨を良く理解して頂いており本当に感謝いたします。そのような皆様だからこそ、お願いがございます。是非に米国「リレー・フォー・ライフ」23年の精神に則り、チームで「がん撲滅」の為の募金活動を大会開催当日まで募って下さい。

「ルミナリエ・バッグ」を充分にご活用頂き、「がん」で苦しんでいる方やそのご家族、またその経験がお有りになるご家族へ「ルミナリエ」を是非紹介して頂き、「リレー・フォー・ライフ」を通した「がん撲滅」運動への参画を仰いで下さいませでしょうか。米国はおおよそ1セット10ドル程度で寄付を募っているそうです。日本では皆様で適価をお決め頂きたいと考えておりますが、いちおうの目安は1セット500円程度でございましょうか。白地の「ルミナリエ・バッグ」に関しては、「日本対がん協会」が皆様の希望数をまず無償で提供致します。RFL実行委員会、チーム担当までご用命ください。

「ルミナリエ・バッグ」を通して皆様が集められた大切な募金は全額「がん撲滅」の為の資金に回り、「日本対がん協会」が責任をもってその有効活用にあたります。米国の「リレー・フォー・ライフ」運動はその生い立ちから現在に到るまで、「がん撲滅」のための募金活動と「がん患者」やその家族・知人の心のケアとを、終始一貫して2本の柱に据えているチャリティ活動であることをどうかご理解下さい。何卒格段のご協力お願い申し上げます。

⇒ [参考:アメリカがん協会リレーフォーライフ募金の活用について](#)

(日本全国の2008年「リレー・フォー・ライフ」大会実行委員のメールでのやりとりからの抜粋)

Date: Sun, 11 May 2008 00:36:35 -0000

チロママさん 大変、申し訳ありませんが、アメリカ対ガン協会の実績を教えてくださいませんか？宜しくお願い致します。

徳島実行委員会

\*\*\*\*\*

私の把握しているアメリカがん協会の実績は、グリベックという薬の開発がRFLの寄付により開発されたということと、研究助成金でノーベル賞受賞者が42人出たということです。皆様もご存知の通り、年間400億円近くの寄付のうち、40%ががん研究助成に充てられていることも凄いですね。

グリベックという薬は、慢性骨髄性白血病の治療薬として、開発された飲み薬ですが、この薬の登場が恐らくがん治療に革命を起こしたと私は思っています。(私は一応血液内科医)その後、このグリベックのような分子標的薬が続々と登場し、今まで治療の方法がなかった分野のがん治療にも恩恵をもたらしています。

グリベック関連のHPIは <http://www.glivec.jp/treatment/cml/04.html> です。

私はRFLの寄付でグリベックが開発された事を知り、大変感動しましたよ!! 医者を読得するにはこの情報は大きな意味を持つような気がします。

大分のチロママ@坂下

\*\*\*\*\*

こんにちは。新横浜のSumitoです。

私たちGIST(消化管間質腫瘍)患者もこのグリベックの恩恵を受けています。妻は腹膜全体に無数の転移巣がありますが、グリベックの効果で5年間進行が止まっており、通常の生活を送っています。坂下先生の言われるように、今この種の分子標的薬が次々と出てきているのですが、メーカー主導の治験は適応範囲が狭く、患者数の少ないがんへの治験は大幅に遅れているのが現状です。研究者、医師による治験への研究費援助も、日本のRFLに将来的に期待したいところです。GISTに限った話で申し訳ありませんが、アメリカでGISTに対するメーカー以外の行っている治験は10以上、日本では0です。研究費、人材、研究施設の不足、治験制度の違いが決定的です。グリベックの話が出ましたので、つい横から失礼しました。

\*\*\*\*\*